

第 112 回規格会議

2019 年 7 月 30 日（火）に、第 112 回規格会議が東海大学校友会館（霞が関ビル）において開催されました。

今回は標準規格の改定 6 件、技術資料の策定 1 件及び改定 4 件が提案通り決議されました。



第 112 回 規格会議の様子

本規格会議において決議された議案の概要は以下のとおりです。

第 112 回規格会議 標準規格及び技術資料の策定及び改定の概要（議案順）

No.	規格等番号	規格名等	概要
1	ARIB STD-T67 2.0 版	特定小電力無線局 400 MHz 帯及び 1,200 MHz 帯テレメータ用、テレコントロール用及びデータ伝送用無線設備 標準規格	<p>本標準規格は、400MHz 帯及び 1200MHz 帯の周波数を用いる電波法施行規則第 6 条第 4 項第 2 号に規定される特定小電力無線局のうち、同号 (1) で規定される、テレメータ(医療用テレメータを除く。)用、テレコントロール(電波を利用して遠隔地点における装置の機能を始動し、変更し、又は終止させることを目的とする信号の伝送をいう。)用及びデータ伝送(主に符号によって処理される、又は処理された情報の伝送交換をいい、体内植込型医療用データ伝送及び体内植込型医療用遠隔計測並びに国際輸送用データ伝送を除く。)用の無線設備について規定したものです。</p> <p>今回の改定は、当該テレメータなどの用途において、機器の小型化、情報伝達の迅速化、効率化、チャンネル不足の解消などに応えるために行われた制度整備を受けて行うものです。具体的には、空中線電力の規定見直し、送信時間制限の緩和、狭帯域化によるチャンネル数増などで、多岐にわたる技術的条件を見直すことから大幅な改定とし 2.0 版とします。</p>

No.	規格等番号	規格名等	概要
2	ARIB STD-T120 Ver.1.30	IMT Systems based on 3GPP Specifications ARIB STANDARD	<p>本標準規格は、3GPP（Third Generation Partnership Project）の技術仕様に基づく国際標準規格 IMT Systems（International Mobile Telecommunications Systems）に関するもので、無線アクセス、コアトランスポートネットワーク、コーデック、セキュリティ、サービス機能などのシステム仕様を規定するものです。</p> <p>第 111 回規格会議（2019 年 4 月開催）において、3GPP が 2018 年 12 月までに更新したリリース 8 からリリース 15 までの技術仕様を基に、新たに IMT Systems based on 3GPP Specifications（ARIB STD-T120 Ver.1.20）として改定されました。</p> <p>今回の改定は、2019 年 3 月までに 3GPP が更新したリリース 8 からリリース 15 までの標準規格を反映するものです。</p>
3	ARIB TR-T23 Ver.1.30	IMT Systems based on 3GPP Specifications ARIB Technical Report	<p>本技術資料は、3GPP（Third Generation Partnership Project）の技術仕様に基づく国際標準規格 IMT Systems（International Mobile Telecommunications Systems）に関するもので、要求条件や今後の規格策定に必要となる技術情報を記載したものです。</p> <p>第 111 回規格会議（2019 年 4 月開催）において、3GPP が 2018 年 12 月までに更新したリリース 8 からリリース 15 までの技術仕様を基に、新たに IMT Systems based on 3GPP Specifications（ARIB TR-T23 Ver.1.20）として改定されました。</p> <p>今回の改定は、2019 年 3 月までに 3GPP が更新したリリース 8 からリリース 15 までの技術資料を反映するものです。</p>
4	RCR STD-38 3.0 版	電波防護 標準規格	<p>本標準規格は、10kHz から 300GHz までの周波数の電波利用において人体が電磁界にさらされる場合、その電磁界が人体に好ましくない電磁現象（深部体温の上昇、電撃、高周波熱傷等）を及ぼさないと考えられる電磁界量及び比吸収率の標準的限界値を電波防護標準規格として規定するものです。併せてその評価に必要な電磁界強度等の推定法（算出する方法、実験する方法等）及び測定法の概要も示したものです。法令で定められる一般環境における規格等に加え、管理環境における規格及び接触電流・誘導電流に関する補助規格も規定しています。</p> <p>今回の改定は、局所吸収指針及び電波防護指針の在り方に関する近年の総務省情報通信審議会の一部答申やそれを受けた制度整備を踏まえてのものです。具体的には、低周波領域（10 kHz</p>

No.	規格等番号	規格名等	概要
			<p>以上 10 MHz 以下) では、電磁界強度の規格値の変更、補助規格の見直し、基本制限の導入等を行い、高周波領域 (100 kHz~300 GHz) では、局所吸収規格の上限周波数の拡張、6GHz 超における入射電力密度の規格値の追加等を行うものです。</p> <p>低周波から高周波にかけて多くの規定の追加・改定があるため、3.0 版として改定します。</p>
5	ARIB TR-T24 1.0 版	中短波放送所周辺の刺激作用に係る電波防護のための電磁界強度の評価法技術資料	<p>本技術資料は、10kHz を超え 10MHz 以下の周波数により振幅変調の放送電波を放射する中短波放送所周辺において、電波防護の適合性を確認するための電磁界強度の評価法についてまとめたものです。</p> <p>これは、電波の強度に対する安全施設の必要の有無を判定するための無線局の電波の強度が電波法施行規則に新たに追加されたことを受け、入手し得る測定器を用いた出来る限り容易な評価法が放送事業者等から求められていることに対応するものです。</p>
6	ARIB STD-B62 2.2 版	デジタル放送におけるマルチメディア符号化方式 (第 2 世代) 標準規格	<p>本標準規格は、デジタル放送における第 2 世代のマルチメディア符号化方式として、データ符号化方式及びマルチメディア符号化方式言語仕様について規定したもので、高度広帯域衛星デジタル放送に適用されます。</p> <p>今回の主な改定は、新 4K8K 衛星放送のマルチメディアサービスの安定運用と多様化に対応するために、高度広帯域衛星デジタル放送の字幕・文字スーパー、文字符号化方式に関して規定追加等をおこなうもので、各編の改定内容は以下のとおりです。</p> <p>第一編の改定は、第一編第 2 部に規定される文字符号化方式において、新元号「令和」の合字(2 文字を 1 文字分の文字幅で収めた文字)を追加するものです。</p> <p>また、第一編第 3 部に規定される字幕・文字スーパーの符号化方式において、伝送に関する記述と字幕提示に関する動作との整合を取るため、ARIB-TTML 文書と同時に伝送されるリソースファイルの伝送方法に関する記述を削除し、併せてこれを運用での規定に委ねるものです。</p>
7	ARIB STD-B63 1.8 版	高度広帯域衛星デジタル放送用受信装置標準規格	<p>本標準規格は、高度広帯域衛星デジタル放送の伝送方式によるデジタル放送用受信装置の基本的な機能、定格及び性能について、望ましい仕様として規定したものです。</p> <p>今回の改定は、右旋および左旋円偏波を利用した衛星放送の受信アンテナから受信機までの光配信システムとして、BS-IF 帯の電波漏洩が</p>

No.	規格等番号	規格名等	概要
			<p>極めて小さく、かつ、低廉で施工性等に優れた波長 850nm を用いる POF (Plastic Optical Fiber) 光配信システムを追加するものです。光配信システムの伝送特性およびコストの観点から、現行規定の 1550nm 光配信システムは主に大規模集合住宅を対象とし、850nm 光配信システムは主に中規模以下の集合住宅および戸建てを対象としています。</p> <p>改定内容としては、現在記載されている波長 1550nm を使用した光配信システムに関わる規定に、波長 850nm を用いる POF (Plastic Optical Fiber) 光配信システムについての規定を追記する改定、および POF 光配信システムについての解説や POF 光配信システムの計算例や伝送性能評価を示した参考資料を追記するものです。</p>
8	ARIB TR-B39 2.2 版	高度広帯域衛星デジタル放送運用規定 技術資料	<p>本技術資料は、高度広帯域衛星デジタル放送の伝送方式による超高精細度テレビジョン放送の放送局での運用並びに受信機の機能仕様に関し規定したものです。</p> <p>今回の主な改定は、新4K8K衛星デジタル放送で暫定的な運用への対応や受信機の安定動作のため、字幕の文字囲みの運用に関する改定、字幕の初期化動作に関する明確化と規定追加、及びCASに連携したデータコンテンツサービスで利用するAPIの明確化を行うものです。</p>
9	ARIB TR-B38 1.3 版	VHF-Low 帯に適用するセグメント連結伝送方式による地上マルチメディア放送運用規定 技術資料	<p>本技術資料は、99MHz を超え 108MHz 以下の周波数の電波 (VHF-Low 帯) を使用する地上基幹放送局を用いて行うセグメント連結伝送方式による地上マルチメディア放送 (以下、V-Low マルチメディア放送) についての運用を規定するもので、V-Low マルチメディア放送の円滑な運用に資することを目的としたものです。</p> <p>今回の改定は、受信機の設計、開発に資するための受信性能等に対するガイドラインの追加、楽曲情報の送信方法の規定追加、時間インターリーブパラメータの運用変更、認定基幹放送事業者の追加、地域の防災又は安全に関する情報の運用の明確化及び誤記修正です。</p>
10	ARIB STD-B72 Ver.1.1	Colour Bar Test Pattern for the Hybrid Log-Gamma (HLG) High Dynamic Range Television (HDR-TV) System ARIB STANDARD	<p>本標準規格は、ARIB 標準規格 STD-B67 で規定され高度広帯域衛星放送方式に採用された HLG 方式の高ダイナミックレンジ映像の基準信号として、カラーバーを規定したものです。</p> <p>今回の改定は、HDR の普及拡大に対応するために、カラーバーの Ramp 波形の定義を明確化するとともに、放送方式として規定されているすべての映像フォーマットに対する HLG カラーバー画像を揃えて提供するものです。</p>

No.	規格等番号	規格名等	概要
11	ARIB TR-B43 1.2 版	高ダイナミックレンジ映像を用いた番組制作の運用ガイドライン 技術資料	<p>本技術資料は、STD-B67 で規定され高度広帯域デジタル衛星放送方式に採用された HLG 方式高ダイナミックレンジ映像の番組制作運用ガイドラインについて規定しており、基準白の定義、SDR から HLG へのマッピング方式のほか代表的な信号レベル等を記載したものです。</p> <p>今回の改定は、新 4K8K 衛星放送用の高ダイナミックレンジ映像と従来放送用の SDR 映像の同時制作をはじめとして HDR 映像を SDR 映像に変換する機会が増えていることに対応するために、主に HDR 映像を SDR 映像に変換する方式の例を参考情報として追加するものです。</p>